

石井十次 顕彰会だより

vol.31



公益財団法人 石井十次顕彰会



公益財団法人 石井十次顕彰会

第31回石井十次賞は 世界的な映画監督 是枝裕和さんに



撮影 藤井 保



© 2018 フジテレビジョン ギャガ AOI Pro.

福祉問題やネグレクト 社会に問い、衝撃与える

公益財団法人石井十次顕彰会は、第31回「石井十次賞」の受賞者を世界的に活躍される映画監督の是枝裕和さんに決定しました。（なお、贈呈式はコロナウイルスの影響で中止しました）

是枝監督は1962年、東京都練馬区に生まれ、長じて早稲田大学第一文学部文芸学科に入学。卒業後、株式会社テレビマンユニオンに入社し、テレビドキュメンタリー番組を手がけるようになります。

そして1991年、生活保護を打ち切られた難病の女性の自死と水俣病和解訴訟に尽力した厚生省官僚の自死の背景にある福祉問題を取り上げた『しかし…福祉切り捨ての時代に』を制作し、優秀な番組を顕彰するギャラクシー賞を受賞。ネグレクトという言葉がまだ知られていない2004年には、巣鴨子供置き去り事件から着

想を得て自ら脚本・監督・編集した『誰も知らない』を発表。社会に大きな衝撃を与え、第57回カンヌ国際映画祭で主演の柳楽優弥さんが最優秀男優賞、シカゴ国際映画祭で「金のプラーク賞」、フランダース国際映画祭でグランプリなどを受賞しました。

カンヌをはじめ、 世界の映画祭で高い評価

2018年には脚本・監督・編集を務めた『万引き家族』で、社会の弱者たちを通して家族の在り方を問い、カンヌ国際映画祭では最高賞となる「パルム・ドール」を獲得。国内外で数多くの映画賞に輝いています。

また、最新作として韓国の子やんポストをめぐる人間模様を同国の俳優陣を使って描いた『ベイビー・ブローカー』を公開。第75回カンヌ国際映画祭コンペティション部門正式出品作品として話題を呼び、観客動員数は100万人を突破しています。

社会的弱者に注ぐ眼差し 作品は十次につながる思い

石井十次顕彰会はこうした弱い立場の人々に眼差しを向け、子どもの人権を社会に問う映画制作は石井十次の精神にふさしいと、石井十次賞の贈呈を決定しました。



石井十次賞選考委員会の
潮谷義子委員長

是枝監督は「『ベイビー・ブローカー』の準備をしていた頃、熊本の赤ちゃんポストのことを調べていて、十次さんの存在を知りました。石井十次賞の話を知った時、福祉や教育の現場で長年汗を流してきた方が受けるべき賞だとは思ったのですが、僕の作品がどこかで十次さんにつながっていると評価されたのかもしれないと考え、お受けすることにしました」と語っています。

石井十次賞

映画監督 是枝裕和 殿

貴台は映画監督として、普通の人々の暮らしによりそい、弱者に光を当て子育てや家族の在り方をテーマに作品を撮り続けておられ、カンヌ国際映画祭で受賞されるなど、世界的に高い評価を得ておられます。

今日、ネグレクトや虐待、引きこもり、貧困、いじめなど、子供の問題は多方面におよび、各種分野からの支援が求められるなか、貴台は作品を通して、児童福祉の課題に独自の認識や見解を示し、広く世界に問いかけておられます。

弱い立場の人々に、温かいまなざしを向けるこれらの取り組みは、貧しい人の友になるうと考えて、岡山孤児院を創立した、石井十次の隣人愛の精神と志を同じくするものであり、心から敬意を表し、第三十二回石井十次賞を贈り、その功績を称えます。

令和四年四月十四日

公益財団法人 石井十次顕彰会
理事長 菅嶋 稔

表彰状全文



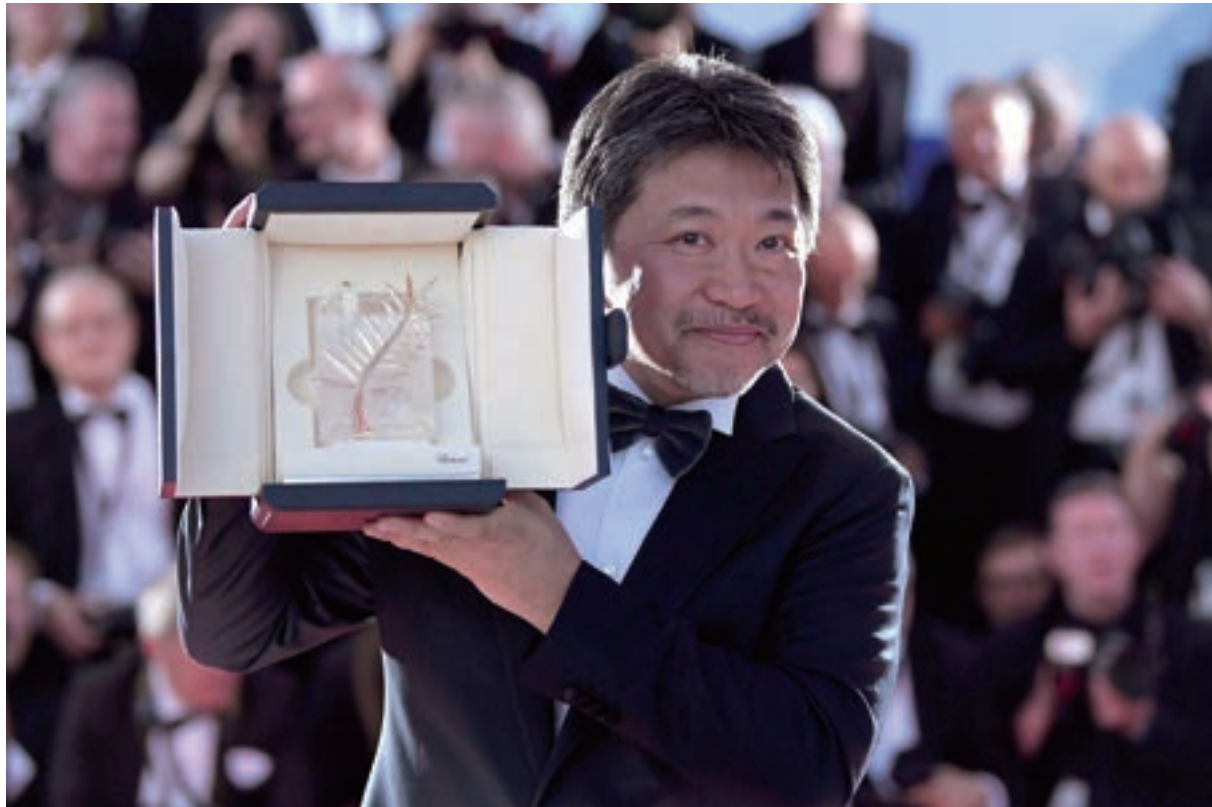
写真上段、右から幼少時代、テレビマンユニオン時代（後列左から二人目）、『もう1つの教育～伊那小学校春組の記録～』制作時に子どもたちと
写真下段、右から『海よりまだ深く』撮影時の是枝監督、左はカンヌ映画祭で『誰も知らない』の出演者と監督（最右）



写真提供：テレビマンユニオン



© 2016 フジテレビジョン バンダイビジュアル AOI Pro. ギャガ



写真提供：テレビマンユニオン

社会的弱者に関心を寄せた作品 世界中から高い評価 続々

是枝裕和監督は幼い頃より映画館で映画に親しんできました。お母さまが映画好きだったためです。一方、『ウルトラマン』や『ウルトラセブン』の特撮もの、中学生になると萩原健一主演の『前略おふくろ様』など、テレビドラマにも夢中だったといいます。

早稲田大学時代にはイタリア映画に強く心を動かされ、学業そつちのけで映画館に通う日々を送ります。また、事実に基づいて作品を作るドキュメンタリーの面白さに目覚め、卒業後はテレビマンユニオンというテレビ番組制作会社に参加します。

そして、1991年、『しかし：福祉切り捨ての時代に』というドキュメンタリー番組を発表。第1作目ながら、優秀な番組や個人を顕彰するギャラクシー賞を受賞します。

同じ年、長野県にある小学校の子どもたちが仔牛の飼育をする3年間を記録した『もう1つの教育〜伊那小学校春組の記録〜』

にスポットを当てて「家族は、血のつながりか、ともに過ごした時間か」と問いかけ、カンヌ国際映画祭で審査員賞を受賞しています。

疑似家族を通して 高齢者所在不明問題に迫る

それから5年後。日本人監督として4人目となる大きな栄誉に輝きます。カンヌ国際映画祭の最高の賞であるパルムドールを『万引き家族』が受賞したのです。

この作品は高齢者所在不明問題を題材の一つにし、縁もゆかりもない人たちが家族のように寄り添い万引きで生計を立てる姿を描いたもの。是枝さんは監督のほか、原案・脚本・編集を手がけ、ミユンヘンやバンクーバー、ロサンゼルスなど、世界の映画祭でもさまざま賞を受賞しました。

これら一連の作品は福祉とは何か、社会的弱者とは何かということをあらためて私たちに突きつけ、深く考えさせるきっかけになっています。

を制作し、優れたテレビ番組を顕彰するATP賞で優秀賞を受賞しました。

このテレビマンユニオン時代、『幻の光』で映画監督デビュー。世界三大映画祭の一つ、イタリアのヴェネチア映画祭で「金のオゼツラ賞」を受賞。次いで、脚本・編集も手がけた2作目の『ワンドフルライフ』がフランスのナント三大大陸映画祭でグランプリを獲得しました。

育児放棄を描き社会に衝撃

大きな話題を呼んだのが4作目の『誰も知らない』です。育児放棄を受けた子どもたちが懸命に生きる姿を描き、社会に衝撃を与えました。

また、主役の柳楽優弥さんがカンヌ国際映画祭で史上最年少、さらに日本人として初めて最優秀男優賞を受賞したことも注目を集めました。

2013年には『そして父になる』を発表。新生児取り違い問題を

是枝裕和監督へのインタビューや受賞のよろこびを語る模様を動画でご覧いただけます。石井十次顕彰会のホームページ内にある「活動報告」から「第31回石井十次賞受賞者・是枝裕和監督の紹介ビデオを公開します」という記事をクリックしてください。YouTubeの画面が現れますから、そこをクリックすればご覧いただけます。



石井十次先生を学び、気付いたこと

高鍋西小学校 5年 竹山凌平

ぼくは、社会や総合的な学習の時間に、石井十次先生の事を学びました。十次先生は、今の高鍋町上江で生まれた方で、今の高鍋西小の大先輩にあたります。十次先生は、二千二百人もの孤児を救い、福祉という言葉の世界に広められた日本を代表する偉人です。十次先生について学習する中で、ぼくは、高鍋西小学校の校訓である「信・愛・和」の三つにつながる大切なことに、いくつも気付かされました。

まず、「信」についてです。人から信頼を得ることは、とても大事なことだと思います。二千二百人の孤児を育てるためには、様々な苦勞があり、たくさんのお金も必要だったそうです。十次先生が

多くの人に支援され、多くの孤児を救えたのはなぜでしょうか。それは、十次先生自身が、周りの人に親切に接していたから、良い行いをたくさんしていたからだだと思います。ぼくも信頼される人にな

りたいです。そのために、日ごろから進んで、いろんな人にあいさつをしています。名前を呼ばれたら、元気よく返事を返すように心がけています。

次に、「愛」についてです。十次先生は「手を差しのべる気持ちが大それた」と教えていらつしやいます。反抗的な態度をとるような孤児に対しても、優しい気持ちで接し続けたそうです。ぼくも、相手を大切に思う心があれば、それが行動や言葉になって表れると思います。ぼくは、友達が困つていたら手助けをしたり、「ありがとう。」と伝えたりすることの大切さを改めて感じています。

最後に「和」についてです。十次先生が多くの孤児を救い、一緒に生活できたのも、「和」の心を大事にされていたからだと思います。みんなを大切にしようという気持ちがあつたからこそ、その心が孤児達に伝わり、孤児達が力を合わせながら生活できるようになつたのだと思いま

す。多くの孤児が「和」の心で生活する姿を見て、十次先生はきつとうれしい気持ちでいっぱいだったと思います。

ぼくが四年生の時のクラスには、みんなが仲良く過ごすための取組の一つに「みんなで遊ぶ日」がありました。ぼくは、健康・遊び係としてこれまでに、遊びの計画を立て、実行しました。みんなが笑顔で遊んでいるのを見て、とてもうれしい気持ちになったことを覚えていきます。

このように、ぼくは、十次先生の学習を通して、大切なことに多く気付かされ、自分の生活を見つめ直すことができました。

高鍋東中学校 2年 出石涼夏

高鍋の偉人、石井十次は、孤児救済を行った「孤児の父」と呼ばれた人です。親のいない子供や、身寄りのない子供を預かり、育てていた人です。石井十次の行動は、たくさん

の人の命と心身を救いました。石井十次は、最初のころは医師を志していました。しかし、ある家族をきっかけに孤児救済の道へと進むことになりました。その家族は、母親が「子供を一人預かってほしい」と

石井十次に頼みました。経済的に苦しく、子供が三人もいたため、育てきれないとのことでした。石井十次は快く引き受け、その子供を大切に育てていました。その後、母親から話を聞いたその家族と同じような境遇の家族が次々と石井十次のもとに訪れます。何人もの子供を預かり、

力をものと、孤児院を完成させた石井十次はたくさん子供を育てました。五十歳にも満たない若さで亡くなりましたが、石井十次の生涯は人のために生きた素晴らしいものでした。

石井十次は孫が生まれたとの報告を聞いて亡くなったと言われています。その孫たちが石井十次の意志を引き継ぎ、今はたくさんさんの児童養護福祉施設や保育園が建設されています。石井十次の働きが現代にまで受け継がれ、今もなお、たくさんの子供や家族の心身を救っているのです。

石井十次は預かった子供に『ライオン教育』という教育をしていました。

『ライオン教育』は、ライオンの子供の教育の仕方を教えたものです。ライオンは自分の子供を崖から突き落とし

ます。そして、その子供が自分で

崖を上がってくるようにするので

す。そのように、石井十次は子供たちの力で壁を這い上がってこれるように厳しい教育をしていたのでした。甘やかすだけが優しさではないことを石井十次は預かった子供に教えていたのです。

このような石井十次の生涯を見て私は石井十次の決断力と行動力のすごさを改めて実感しました。今までもずっと勉強していた医学の本を燃やし、孤児救済の道へ進むことを決めた石井十次。しかし、その判断は決して安易なことではなかったと思います。私も自分の意志をしっかりと貫き通し、思うだけではなく行動するという石井十次の生き方を見習いたいと思いました。大切なのは自分がどう生きていくか、自分自身が決めた道をしつかりと歩いていけるよう、この先の試練を石井十次のような強い心で乗り越えていき、石井十次のような強い志を持って生きていきたいと思いました。

石井十次の孤児救済

第7回 なわのおび賞 受賞者紹介

※学年は令和4年3月時

高鍋東小学校6年 諸富 菜月さん (もろどみ・なつ)

授業中は自分の考えを積極的に発表。わからない問題には繰り返し挑み、自己研鑽に努めている。周囲への思いやりも深く、行事や委員会活動にも進んで参加。運動会では会を成功させようと尽力した。バドミントンや「緑の少年団」など校外活動にも熱心に取り組んでいる。

高鍋西小学校6年 橋口 侑奈さん (はしぐち・ゆな)

何ごとも自分のやるべきことを最後まで責任をもって遂行。誰に対しても分け隔てなく笑顔で接し、穏やかな学校生活を送っている。生活委員会では朝のあいさつ運動に積極的に取り組み、クラブ活動では上級生として異学年が交流できるように心配りをしている。

高鍋東中学校3年 三枝 千洋さん (みえだ・ちひろ)

毎年、学級三役として活躍。明るい性格と誠実さで周囲の信頼もあつく、学校行事にも積極的に参加し、グループ活動でも協力して活動することができている。小学校から続けている陸上競技では素晴らしい成績を残し、高鍋町スポーツ協会優秀賞を受賞。学習面でも努力家だ。

高鍋西中学校3年 泥谷 歩夢さん (ひじや・あゆむ)

約6 km という通学距離をほとんど休むことなく登校。学習に力を注ぎ、志望校合格を勝ち取る学力を身につけた。2年時には帰宅困難な認知症の高齢者を発見し、安全な場所に誘導して周囲の大人に引き渡し、町より感謝状を受けた。困った人へのまなざしはやさしい。

高鍋高等学校2年 守部 心々音さん (もりべ・ここね)

学校の学習や部活動と両立させ、ユネスコ・アジア文化センター「高校模擬国連大会」に全国から選抜され、「子どもの貧困」問題にモンゴルの生徒と共に政策策定に取り組んだ。また、「みやぎき SDG's Action」で日向の企業と組み、持続可能な社会への提案も企画した。

高鍋高等学校 上杉鷹山研究班 代表

2年 永友 楽進さん (ながとも・がくしん)

2年 竹井 ゆいさん (たけい・ゆい)

2年 藤井 美有さん (ふじい・みゆ)

宮崎産業経営大学の「上杉鷹山公」シンポジウムに参加。高鍋藩と米沢藩の関わりや鷹山の生き方、政策などを研究した。10回以上の研究会で他校の生徒や学生、教授らとやりとりを重ねる中、コミュニケーション力や研究成果をプレゼンテーションする力を身につけた。

高鍋農業高校3年 塩月 隆弘さん (しおつき・たかひろ)

誠実な人柄で積極性があり、周囲と良好な関係を築いている。学習面では理解力が高く、上位の成績を取っている。「宮崎県学校農業クラブ連盟大会」で最優秀賞、さらに教育長を受賞した。専門知識を身につけるため進学を予定。将来、地域農業を担う人材になる貴重な生徒だ。

石井十次先生のこと

高鍋農業高等学校 3年 山下 真央

私が最初に石井十次先生の事を知ったのは小学生の時でした。私は児湯郡出身なので石井十次先生の事を授業の時間を使って学習をしていましたが、当時は担任の先生が話しているのをただ聞いているだけでした。

しかし、今回意見発表をする機会ができたため、もう一度石井十次先生の事についてインターネットや本を使って調べてみました。すると小学生ではあまり理解できなかったことが今になって少しずつわかってきました。

石井十次先生は、福祉が無かった明治時代、日本で最初に孤児院を設立したのちに孤児救済に力を入れ、教育を施し手に職をつけさせたとありました。この事を再度知った私は、石井十次先生は改めてとても尊敬できる偉人だということがわかりました。また、孤児達を助け、教育にも力を注ぎ、見捨てずに最後まで見届けたと記されていました。先生は誰にでも優しく手を差し伸べ、困っている人達を助けていた事がとても伝わっ

てきました。

私は、困っている人を見かけると積極的に助けるように心がけています。自分がどんなに大変な状況であつたとしても、見捨てないように心がけています。私は明倫寮で寮生活を送っていますが、私は人の役に立つことをモットーに学校でも、寮でも誰かが困っていたら手を差し伸べるようにしています。しかし、自分が良かれと思つて行動した結果がいろんな方向に転ぶことがあります。石井十次先生も良い時も悪い時もあつたかと思えます。それでも諦めずに良い方向に動かす事が出来ていたのは、先生の子ども達に対する情熱があつてこそだと思えます。私も先生のように最初から完璧を求めずに時に失敗しながら人の役に立つ事のできるかつこいい人間になりたいと思います。

石井十次先生は孤児院を建設し、3000人の子ども達を社会に送り出しました。子ども達を大切に思い、育てた事には、強い意志があつたからこそ、先生は大きな偉

業を成し遂げる事が出来たんだと思えます。

今、世界のなかでは心を痛めることが多くあります。貧富の差の影響で満足に食事をする事が難しい国や、今でも続いているロシアとウクライナの戦争でもウクライナの人々はロシアからの攻撃を受け、大人も子どももたくさんの人達が私たちの想像を超えてしまうほど、多くの人々が怪我をしたり、たくさんの方々が亡くなられています。もしも今、石井十次先生がご健在であつたとしたら、この世界の状況を見てどのようなお考えをもたれるのでしょうか。

子ども達のために様々な努力をされた先生は、誰もが思いつくことの出来ない発言をされると私は思います。先生はどんなに大変な状況になつても、血のにじむような苦勞と努力をされてきました。私も先生のように失敗しても諦めずに、何度でもたくさん努力をしてより良い学校作りを生徒会役員全員で取り組んでいきたいと思えます。



第30回を迎えた 石井十次顕彰のつどい

令和4年11月12日、たかしんホールで
合唱や合奏、発表などに大きな拍手

第30回という記念すべき節目を迎えた「石井十次顕彰のつどい」を昨年11月12日、たかしんホールで開催しました。コロナウイルスの影響で中止が続き、3年ぶりとなった今回、高鍋西小学校の5年生、6年生が合唱や合奏を披露。また、「十次先生の思いを引き継ぐ発表」では、生徒が制作したスライドをプロジェクターを使って大きく映し出し、十次の功績をわかりやすく紹介してくれました。また、十次の有名なエピソードを当時の雰囲気伝える衣装をまとって寸劇として上演。その熱い演技に会場中から大きな拍手が送られていました。

ご報告

このたび、みなさま方より多額のご寄附をいただきました。
ここに厚く御礼申し上げますとともに、謹んでご芳名を記させていただきます。
(令和4年1月1日～令和4年12月31日)

篤志寄附

高鍋町 株式会社 増田工務店様
高鍋町 株式会社 高鍋衛生公社様
高鍋町 有限会社 事務機のフクモト様

忌明寄附

宮崎市 津曲 康一郎様



編集後記

「石井十次顕彰会だより」第31号をお届けいたします。今回の石井十次賞は、映画監督として世界的に活躍される是枝裕和さんに贈呈させていただきました。

東京・渋谷にある事務所まで取材にお伺いすると、社会福祉に関すること、石井十次のこと、今後の映画づくりのことなど、一つひとつ言葉を選びながら丁寧に話していただきました。印象的だったのは子どもたちの音楽隊に関心を寄せられていたこと。国内はもとより、アメリカなどに遠征していた歴史が、是枝監督の創作活動に刺激を与えたようでしたら、これ以上のよこごびはありません。さて、コロナの影響は鎮静しつつあるもののまだ予断は許されず、一日も早い収束が待たれます。みなさま方におかれましては、引き続き当顕彰会活動にご支援のほどお願い申し上げます。



発行日 2023年3月1日
発行元 公益財団法人 石井十次顕彰会

〒884-10006
児湯郡高鍋町大字上江81-13番地
☎0983-12314312